



近村 晴男 議員
(花巻クラブ)

「カンプラ」の再整備について 地域協議会の諮問を経て成案へ

Q ワインまつりのメイン会場として利用されてきた大迫カントリープラザは、老朽化のため使用が禁止されているが、再整備について地域住民の意見を聴いた結果を受けての今後の再整備の方針と計画案、取り組みの手順等について伺う。

A 【商工観光部長】 市として、さまざまな角度から再整備の方策を検討してきた中で、広く地域の皆様率直なご意見をお聴きするため、大迫地区すべての振興センターごとに住民の意見を聴く会を開催した。今後、今回いただいたご意見等を踏まえながら、慎重に再整備計画の策定を進め、最終的には地域協議会への諮問を経て成案に仕上げたいと考えているが、まずは、危険な状態にある施設の撤去を早急に進める必要があると考えている。

投票所の再点検は

Q 各種選挙の投票率の向上を目指す対策の中でも重要なのが、投票しやすい建物や場所、位置の選定と思うが、市内投票所の再点検と、投票所の変更があるか伺う。



現在は老朽化のため使用が禁止されている大迫カントリープラザ

A 【選挙管理委員会委員長】 投票所については、有権者に分かりやすく、利用しやすいことを前提に、公的施設や民間施設を指定し選挙の執行をしてきたが、投票区の見直しを含め、有権者の方々のご意見を伺いながら、今後も検討を進めていく。大迫地域で変更が要望されている件は、地元の合意形成が図られている状況にあることから、次の選挙執行時から投票所を変更する予定である。

市政「い」が聞きたい
いっぱい質問



藤原 晶幸 議員
(明和会)

賢治のまちづくり推進事業 賢治のまち花巻を全国・世界へ

Q 賢治のまちづくり推進事業について、「まちづくり・人づくり」や「交流人口の拡大」など総合的な地域の活性化を図るべく「賢治さんの香りあふれるまち」の実現を目指し、事業を展開しているが、この事業の推進状況と実績および課題と今後の取り組みについて伺う。

A 【市長】 4分野16事業を展開している。実績は「はなまき賢治セミナー」を新規に開設し、延べ受講者数は269人。「賢治・風のステージ」を童話村で開催し、入場者数は約1000人など。課題としては、ハード・ソフト両面から「賢治の生誕地」の魅力をさらに高めていく必要があると考えている。そのため、宮沢賢治記念館周辺一帯を「賢治・胡四王の森」として一体的な再整備等を行うほか、賢治没後80年事業「イーハトーヴ交響曲」の花巻公演を行うなど、今後とも「賢治のまち花巻」を全国、そして世界に発信していく。

防災対策について

Q 東日本大震災時において、本市では幸い断水の被害は少ない



多くの市民が来場した「賢治・風のステージ」(宮沢賢治童話村)

かつたが、災害時の水の確保は大事である。老朽管の更新状況について伺う。
A 【上下水道部長】 平成22年度に事業費1億7361万8000円、延長3090メートル。23年度には、1億6488万2000円、延長3194メートルを実施している。また、24年度には、26年4月の広域統合を控え、アセットマネジメント(資産管理)で経年施設更新事業を広域化促進事業として、1億9490万円、延長6800メートルを計画し実施している。



阿部 一男 議員
(平和環境社民クラブ)

合併の財政特例措置後の予算は 400億円を切る規模を目標

Q 市は合併による国の財政支援措置(平成18年〜27年)の終了に伴い、地方交付税が削減されるため、予算規模を縮小せざるを得ない。今後の財政運営および財政規模の考えを伺う。

A 【市長】 本来の自治体規模に見合った目安として、現時点では全国の類似団体のうち、非合併市の平均である400億円を切る程度と見立てているが、市税や地方交付税等の歳入規模に応じて、身の丈に合った健全な財政運営に努めていく。また、将来の財政負担を軽減するため市債残高を削減するとともに、安定的な財政運営を図るため不測の事態に対応できる財政調整基金の確保に努めている。

高齢者福祉について

Q 第5期介護保険事業の施設整備で、介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、地域密着型介護老人福祉施設(小規模特別養護老人ホーム)の入所待機者数は緩和されるか。また、一人暮らし高齢者など要援護者の「安否確認」や支え合いが必要。行政区単位で、町内会、民生委員、地域包括支援センターなどと連携し、「地域支え合い体



高齢者を支え合うまちづくりが必要

制「モデル地区を設定し取り組む考えを伺う。

A 【生活福祉部長】 市では、「誰もが慣れ親しんだ地域で、共に支え合い、安心して暮らせるまち」を目指し、振興センター単位より小さい単位で、隣近所の方々が民生委員や地域包括支援センター等と緊密に連携し、地域の中の支え合いの仕組みづくりを進めている。平成25年度においても、自治会や行政区単位で地域課題を解決していくこととしており、モデル地区設置は考えていない。



鎌田 芳雄 議員
(花巻クラブ)

前田小学校跡の利活用は 「昭和の学校」として地元と協議

Q 前田小学校跡の利活用について、湯口区長会要望委員会が、4747人の署名簿を添えて要望した。その内容は、交流やイベント会場、直売所、主要地方道花巻大曲線を通行する観光客用のトイレ、災害時一時避難所や災害備蓄施設等の提案となっているが、官民一体となって花巻市全体の利益や観光振興に役立つ企業誘致のかたちでの利活用の考えはないか伺う。

A 【まちづくり部長】 学校跡地の利活用は、地域での利活用を最優先に地元と協議し、活用策がない場合は取り壊しを基本としてきた。前田小学校跡地については、地元と数回にわたり協議してきたが、本年2月に民間の方から、旧小学校校舎を活用した「昭和の学校」事業を展開したいとの申し出があり、地元も賛同するとのことから、貸し付けに向け協議していく。

冬のスポーツ振興

Q 鉛温泉スキー場の運営状況について、今後継続していくのか伺う。

A 【まちづくり部長】 鉛温泉スキー場のここ数年の利用者数は、



「昭和の学校」として活用予定の旧前田小学校

17000人から18000人と横ばいで推移している。課題としては、施設の老朽化に対応した整備、利用状況の低迷から発生している収支バランスの改善等がある。市中心部から30分という恵まれた立地条件であることから、市内児童生徒が利用しやすい環境をつくるなど経費の節減に努めながら、多くの市民が利用しやすい市民スキー場として開放していくことも視野に入れながら運営していく。